

抗凝固・抗血小板薬を服用時の注意点 看護師 間絵理

血液をさらさらにする薬には2種類あります。

抗凝固薬：ワーファリン・プラザキサ・イグザレルト・エリキュース・リクシアナなど

抗血小板薬：バイアスピリン・バファリン・プラビックス・プレタール・エフィエントなど

抗凝固薬は主に心房細動や深部静脈血栓症など、心臓や静脈内に血栓ができにくくする目的で使われます。一方、抗血小板薬は狭心症や脳梗塞などの予防や、冠動脈ステントに血栓が付かないようにする目的で使われ、動脈内で血栓ができるのを防ぎます。どちらの薬も血栓による病気を防ぐ効果を持つ一方で、けがをした時に血が止まりにくかったり、脳出血や胃潰瘍から出血をおこしてしまう副作用もあります。

歯の治療をする際に、以前は抗凝固薬を休薬して抜歯を行っていましたが、休薬中に脳梗塞や心筋梗塞をおこしてしまうリスクが高まることがわかり、休薬せずに治療を行うことが推奨されるようになりました。血が止まるのに少々時間はかかりますが、押さえておけば出血は必ず止まるからです。また、内視鏡検査や白内障手術、体表の簡単な手術時も休薬せずに内服継続での実施が推奨されています。薬剤の種類や疾患の状態、処置や手術の内容にあわせて休薬を行う必要があるか判断しますので、主治医に確認してください。

けがなどで出血してしまったら、出血部位を手や指でしっかりと押さえ続けて下さい。血が止まるまで通常よりも時間がかかりますが、必ず止まります。止まりにくい鼻血や血尿、血便などは主治医にご相談ください。

止血対策

ケガなどによる出血のとき



グッと
10分間

タオルなどでおさえる
(圧迫止血)

鼻血のとき



つまんで
5分間

うつぶいて鼻をつまむ

ただし、以下にあてはまるときは、
すぐにご連絡ください。

- ①血便、血尿が出る
- ②腫れ上がるような皮下出血(あおあざ)がある
- ③上記の止血対策を行っても、血が止まらない
- ④その他、出血が気になるとき

転倒や強打により体に強い衝撃を受けた時は、出血がなくてもその場所を手で5～10分位圧迫してください。その時は大丈夫だと思っても、内出血を起こしていて、あとから青紫色に変色する場合があります。強い衝撃を受けた最初の時点でしっかりと圧迫することにより、内出血を少なくする効果があります。

出血を避けるために、次の点に注意してください。



ヒゲを剃るときは
電気カミソリを



歯ブラシは
柔らかめを



鼻をかむときは
やさしく



ケガのおそれがある仕事や
運動は、なるべく避けましょう